

日本声楽発声学会

第118回 例会 第62回 総会

令和8年(2026年)5月31日(日)
9:55~16:35 (受付:9:30より)

東京藝術大学音楽学部

大講義室(5-109)・第1ホール

(JR 上野駅公園口より徒歩10分)



上のQRコードを読み取り例会アンケートにご協力ください(2026年6月15日まで)

(お願い)

- ①携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ②録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。(本学会では記録用として係員が録音録画をしますがそれ以外は個人情報と著作権保護のため厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。)
- ③感染症予防に関しては、ご自身でご判断の上ご入場ください。

開会挨拶 9:55～10:00

会長 佐々木 正利

A. 研究発表 10:00～11:05(5-109 大講義室)

司会： 副会長・事務局長 齊藤 祐

1)10:00～10:25

座長： 佐々木 正利

発表者： 小川 暁美 （盛岡市立山岸小学校指導教諭、指導力向上スーパーバイザー、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインコンサートミストレス、グルッペベツヒライン、熊友会ヴォーカルアンサンブル）
佐々木 幹雄 （盛岡バッハ・カンタータ・フェラインコンサートマスター、岩手県内各地の3つの一般合唱団指揮者、グルッペベツヒライン、熊友会ヴォーカルアンサンブル）

発表題目：「子供が輝く合唱指導～教育現場における授業と課外クラブの実践を通じて～」

概要： 学校現場において、音楽は生活や心に潤いをもたらす、心身の発達に必要な不可欠なものである。中でも歌は、身体を楽器にした誰もがができる音楽活動である。しかし、歌が好きなきでも健康的で豊かな声を出すことは簡単ではない。また、歌を苦手と感じ、ほとんど声を出さない子も多い。自身の音楽活動を顧みながら、小学校の音楽の授業と課外活動の実践を中心に、健康的で音楽的な発声と表現を求める、子供が輝く合唱指導の在り方を考察・発表する。

10:25～10:30 質疑応答

2)10:35～11:00

座長： 渡辺 修身

発表者： 陣内 直（福井大学教育学部准教授。ハンガリーのリスト音楽院合唱指揮科を卒業。合唱指揮とソルフェージュ指導にあたる。バロック音楽やグレゴリオ聖歌にも関心を寄せる。札幌音楽家協議会、日本コダーイ協会、各会員）

発表題目：「歌唱教育における階名を使った移動ド唱法の効用と理論について

～歌と読譜を音楽的に教えるために～」

概要： 階名シラブルのひとつひとつにはそれぞれ音楽的な特徴があり、その特徴と音楽の抑揚を一致させる歌い方を教えることが、音楽的とは何かを考えてもらうきっかけになるのではないかと考えている。「階名唱とは何か」「歌唱教育における階名唱の効果について」、さらに「歌唱教育において移動ドを使うとはどのようなことなのか」を、コダーイ・アプローチによる音楽訓練の方法を例として紹介する。

11:00～11:05 質疑応答

~~~~~  
**第 62 回総会 11:15～11:50**

正会員および学生正会員のみご出席ください  
~~~~~

各種連絡： 事務局次長 森井 佳子
事務局主査 佐々木 徹

昼食休憩 12:00～13:00

B. 特別講演 13:00～15:00(5-109 大講義室)

講師：川井 弘子 Kawai, Hiroko

司会：梅村 憲子

演題：「声の不調を“歌って”なおす～耳鼻咽喉科医との協働による声楽レッスンの新たな可能性～」

概要：声帯ポリープ(30代テノール)、声帯結節(40代、ソプラノ)、激しい声の揺れ(60代、ソプラノ)が、歌うことをやめることなく、自分の練習と声楽レッスンで歌声が改善していった例(声帯ポリープは自然消滅した)を発表する。

《着眼点》

- ① 耳鼻咽喉科医による診察・診断
- ② 診断を受けての本人の心理的状态と回復への意欲、レッスンでできること
- ③ 声楽レッスンでのポイント_教師の指示・着眼点、生徒側の受けとめ・練習方法
- ④ 改善の過程と結果、今後の課題と可能性

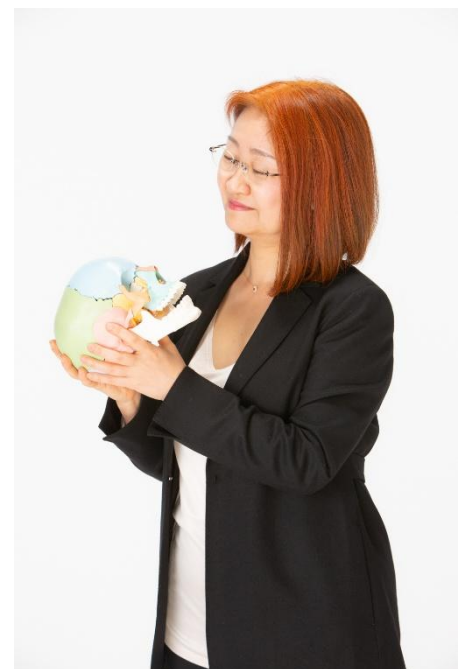
川井 弘子(ソプラノ、声楽指導者、Body Mapping Educator)

倉敷市出身。広島大学教育学部音楽科卒業、東京学芸大学大学院修了。シュトゥットガルト音楽大学大学院リート科とオランダ政府給費留学生としてユトレヒト音楽院に学ぶ。声楽を永井和子(大阪)、日比啓子、J.シュタヴスキー、E.アーメリング、M.ブロック、発声トレーニング法を木下武久、歌曲解釈法を K.リヒター、R.ヤンセンの諸氏に師事。

一方、発声だけでなく身体のことに関心を持ち、ドイツで音大の授業の中にあつた「アレクサンダー・テクニク」(以下 AT)のレッスンを受講。スイス・日本でも受講を継続。AT から開発された「ボディ・マッピング」(以下 BM)について 2001 年アメリカで学び、BM を演奏家に指導する資格を取得。国内外で講座『音楽家ならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』(B.コナブル著の同名の本は音楽書のベストセラー)を開催。動きのレッスンで受講生の楽器の音や歌声が激変し、「目からうろこ」「ひろこマジック」と呼ばれる。

2015 年、声楽家を対象とした初の自著『うまく歌える「からだ」のつかいかた』(誠信書房)を出版。2026 年 6 月に 12 刷が決定。音楽書のベストセラー、ロングセラーとなる。2018 年、同《実践編》、2021 年『歌う人のためのはじめての解剖学 監修:坂井建雄』を発刊、これらも増刷を重ねている。

現在、東京・京都/大阪・倉敷で講座や個人レッスンを定期的に開催し、“easy & free & healthy”な Somatic な発声と身体を使い方を、悩める声楽家や音楽教師たち・熱心な愛好家たちとシェアしている。倉敷市在住。2026 年のソロリサイタルは“憩いと愛をはこぶ Ruhe und Liebe zu uns tragen II”と題して 5 か国語で、9/18(金)19 時【横浜】フィリアホール、10/18(日)15 時【京都】バロックザールで開催予定。



14:40～15:00 質疑応答

講師: 宮里 直樹 Miyasato, Naoki 水野 彰子 Mizuno, Shoko

演奏曲目: 《愛の妙薬》から「人知れぬ涙」 G. Donizetti
《リゴレット》から「女心の歌」 G. Verdi
《トゥーランドット》から「誰も寝てはならぬ」 G. Puccini

宮里 直樹(テノール)

東京藝術大学声楽科首席卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程声楽(オペラ)専攻修了。第34回出光音楽賞受賞。第10回グラチア賞受賞。ウィーン国立音楽大学オペラ科にて2年間学ぶ。声楽を多田羅迪夫、ジャコモ・アラガル、ラルフ・デーリングの各氏に師事。

これまでN響始め、読響、都響など国内主要オーケストラと共演。その他上海交響楽団、チャイナフィルハーモニー管弦楽団、LVIV フィルハーモニックオーケストラと共演。《トスカ》カヴァラドッシ、《愛の妙薬》ネモリーノ、《椿姫》アルフレード、《蝶々夫人》ピンカートン、《仮面舞踏会》リッカルド、《リゴレット》マントヴァ伯爵、その他にも多くのオペラの主役で活躍。2022年新国立劇場公演《ばらの騎士》テノール歌手役で新国立劇場デビュー。2023年新国立劇場公演《ラ・ボエーム》ロドルフォ役で出演。2025年佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ《さまよえるオランダ人》エリック役、全国共同制作オペラ《愛の妙薬》ネモリーノ役、二期会コンチェルトンテシリーズオペラ《ファウストの劫罰》ファウスト役で出演し、いずれも大好評を博す。今後もオペラ、コンサートに多数出演が決まっている新進気鋭の若手テノール歌手である。その他FM-NHK「リサイタル・ノヴァ」、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHK「クラシックTV」、「ららら♪クラシック」、「題名のない音楽会」等に出演。イタリア・ガルダ湖にて毎年開催されているムジカ・リーヴァ・フェスティバルに2016年、2018年に出演。2020年から連続でNHKニューイヤー・オペラコンサートに出場。第23回リッカルド・ザンドナーイコンコルソ第2位。第48回日伊声楽コンコルソ第1位。五十嵐喜芳賞、歌曲賞受賞。第10回東京音楽コンクール声楽部門第2位(1位なし)。同時に聴衆賞受賞。その他受賞歴多数。2011年外務省主催の天皇誕生日祝賀会にて国歌独唱。AMATI所属。ホームページ <http://naokimiyasato.com>



水野 彰子(ピアニスト)

東京藝術大学を経て同大学大学院修士課程室内楽研究分野を首席で修了。大学院アカンサス音楽賞受賞。室内楽、声楽、弦楽、管楽、合唱などの幅広いジャンルでアンサンブルピアニストとして定評がある。ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポンや宮崎国際音楽祭など様々な国際音楽祭に出演。2021年、2022年、2023年、2024年高崎音楽祭に自身がプロデュースを行うシャローネシンガーズが出演。

FM-NHK「リサイタル・ノヴァ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、BS-TBS「日本名曲アルバム」、NHK BS プレミアム「クラシック倶楽部」出演。現在、SHALONE 株式会社代表、新国立劇場オペラ音楽スタッフ(劇場ピアニスト)、藤原歌劇団ピアニスト。



16:15～16:30 質疑応答

閉会挨拶 16:30～16:35

池田 京子